

家康公が残した宝

MAP P16・17

【静岡市葵区】

10 久能山東照宮

11 静岡市文化財資料館

12 井川大日峠お茶蔵

家康公の偉大さを物語る
建物や品々

家康公を祀る東照宮がある場所として知られる久能山。古くは、天台宗久能寺（現在の鉄舟寺）と呼ばれた山岳信仰の寺があった。今川氏を滅ぼした武田信玄は、寺を移転させて「久能山城」を築城するが、武田氏滅亡とともに落城。その後、大御所家康公が堅固なる

山城として重要な拠点にしたという。

家康公は遺言で「遺骸は久能山に埋葬するよう」と家臣に託し、元和2年（1616）4月17日に、駿府城内で75歳の生涯を閉じると、その日のうちに久能山へ埋葬された。同年5月には、二代將軍秀忠公の命によって、徳川頼宣公が総奉行となり中井大和守正清を棟梁として久能山東照宮が着工され、翌年12月には豪華絢爛な東照宮が完成した。

山の下にある石鳥居から数えて1159段の石段が続く。極彩色に彩られた楼門をくぐり、さらに奥に進むとひと際きらびやかな社殿がある。その奥には家康公を祀る神廟がある。家康公ゆかりの品々は、東照宮博物館のほか静岡市文化財資料館にも展示され、「勝ふくべ」や「軍配」を見ることが

10 久能山東照宮



- ①久能山東照宮社殿:当時の建築技術と芸術の粋を集めた「権現造(ごんげんづくり)」の社殿は、日光東照宮など全国にある東照宮の原型。平成22年(2010)に本殿・石の間・拜殿が国宝に指定された。
- ②神廄(しんぎゅう):家康公の愛馬を飼育するために建てられた厩舎。名工、左甚五郎の手による愛馬そっくりの彫刻馬がある。
- ③神廟:家康公の遺骸が埋葬された場所に建つ。三代將軍徳川家光公によって、当初の祠のかわりに高さ5.5m、まわり8mの石塔が建てられた。
- ④表参道石段:山下にある石鳥居から数えて1159段あり、ここからの眺望はすばらしい。

静岡市駿河区根古屋390
☎054-237-2438
拝観料/大人500円、小・中学生200円
参拝時間/9:00~17:00(10~3月は16:00まで)
※博物館は2013年9月末まで休館
参拝ルート/久能山下から徒歩または日本平山頂より日本平ロープウェイ(5分)を利用



11 静岡市文化財資料館

静岡浅間(せんげん)神社境内の湖畔にあり、静岡浅間神社所蔵の神宝類などの展示をしている資料館。館内には家康公鷹狩立像がある。

静岡市葵区宮ヶ崎町102-1 静岡浅間神社内
☎054-245-3500
開館時間/9:00~16:30
休館日/月曜日・祝日の翌日・年末年始
入館料/200円(中学生以下は無料)



◆駿府本山茶まつり「駿府お茶壺道中」

毎年10月に新茶の時期に茶壺に詰めてお茶蔵で保管された茶葉は、秋に行われるお茶壺道中行列で蔵出しされ、茶壺を籠に掛けて、時代衣装を身にまとった人々によって久能山東照宮まで運ばれる。

駿府お茶壺道中 開催場所/静岡市葵区井川~市街地~駿河区久能山東照宮
☎054-254-2111(静岡市役所)
開催時期/10月下旬



12 井川大日峠お茶蔵

江戸時代のお茶蔵を復元したもの
静岡市葵区井川3033番地
井川大日峠 ビクニック広場

によりお茶壺が大切に運ばれ、「口切りの儀式」として御茶壺が開封され吟味された後、駿府城に運ばれて家康公が飲用したという。平成14年(2002)に井川大日峠の広場にお茶蔵が復元されている。

また、安倍川上流地域で作られる安倍茶は御用茶として献上された。かつて井川大日峠には献上茶を保存するお茶壺屋敷があり、「山口・大般若・志賀・捨子・金森・一文字・玉虫・楊柳・清香」などの呼び名で知られた名器の茶壺にお茶を詰めて厳重に警護し保存されていた。標高1200mの山奥に貯蔵した理由は、冷蔵庫のない時代のために自然の冷蔵庫として最適だったからだとか。大日峠のお茶壺屋敷からは、「駿府のお茶壺道中」と呼んで御茶道師



家康公はお茶が好き

家康公はお茶を好み、駿府城下町の中に茶の取引を専門とする町(茶町)を誕生させた。現在もその地名はそのまま残っている。